

中国はこれまで厳格なゼロコロナ政策を実施してきた。2か月以上に亘る上海のロックダウンは記憶に新しいところだと思われる。しかし12月7日に発表された政府の対策緩和の通知を皮切りに、コロナに対する大きな方針転換が行われた。上海で生活をするにあたって、実際にどのような変化があったのか、現地感覚を交えながらお伝えしたいと思う。

これまで上海ではロックダウンの後、PCR検査の小屋が市内のあらゆるところに作られ、ほぼ毎日、少なくとも3日に1回、PCR検査を受けなければ、上海で社会生活を継続することはできなかった。具体的にはPCR検査結果が、スマホの健康コードにおいて、陽性なら赤、一定期間PCR検査を受けていなければ黄、陰性であれば緑で表示され、健康コードが緑でなければ、地下鉄やバスの公共交通機関を利用できず、カフェやレストラン、ひいてはオフィスビル内にさえ入ることができなかった。またあらゆるところで場所コードと呼ばれるQRコードを読み込まれ、仮に陽性者が発見された場合には、その時間帯にその場所にいた人たちが濃厚接触者として健康コードが赤になり、隔離の対象になっていた。

しかし現在は、PCR検査を受けなくても健康コードが黄や赤になることはない。また交通機関や施設を利用する場合に、基本的に健康コードを見せる必要はなくなり、場所コードも廃止されることとなった。そのためPCR検査を受けないという人たちも増加してきている。

さらに通常のPCR検査は10人まとめて行われる混管という方法であるため、一緒に受けた見ず知らずの人の中に陽

性がいれば再検査と表示される。仮に再検査となった場合には1人ずつの単管という方法でPCR検査を行うこととなる。しかし最近はこの検査結果が出るのがとても遅く、場合によっては2日以上結果が出ない。そのため自分が再検査をする必要があるのかどうかすらわからない状況が続くこととなる。

このような状態であるため、既に正確な感染者数の把握は難しく、公表されている数字は参考にならない。これまで集団免疫のなかった中国で一気に感染者数が増加している状況であるが、中国政府もそれを抑制しようとしていないように思われ、オミクロン株はそれほど重症化しないとの専門家の意見や、万が一陽性になった場合に備える方法など、これまでと明らかに発表の内容が変わってきている。

政府によると90%以上がコロナの陽性者になるだろうと予想されているものの、多くの中国人はコロナに対する恐怖に怯えており、残りの10%に入りたいと願っている。そのため既にコロナが蔓延している北京などでは、隔離もされていないのに誰も外出しないという現象が生じている。上海も今後爆発的に陽性者が増加すると思われる。今後到来するであろう感染のピークに備えて、できるだけ感染しないよう、感染しても乗り切れるよう、十分に体力をつけて薬や食料を準備しておきたい。

具体的な事案に関するお問い合わせ☒メールアドレス：info_china@ohebashi.com

本ニュースレターの発行元は弁護士法人大江橋法律事務所です。弁護士法人大江橋法律事務所は、1981年に設立された日本の総合法律事務所です。東京、大阪、名古屋、海外は上海にオフィスを構えており、主に企業法務を中心とした法的サービスを提供しております。本ニュースレターの内容は、一般的な情報提供に止まるものであり、個別具体的なケースに関する法的アドバイスを想定したものではありません。本ニュースレターの内容につきましては、一切の責任を負わないものとさせていただきます。法律・裁判例に関する情報及びその対応等については本ニュースレターのみには依拠されるべきでなく、必要に応じて別途弁護士のアドバイスをお受け頂ければと存じます。